

2022年6月14日

授業は年初のスケジュールからは遅れており、第5回「薩長の攘夷戦争」の振り返りからの開始。幕末の公儀(幕府)の苦悩と禁裏(朝廷)がある京都の混乱について教わった。

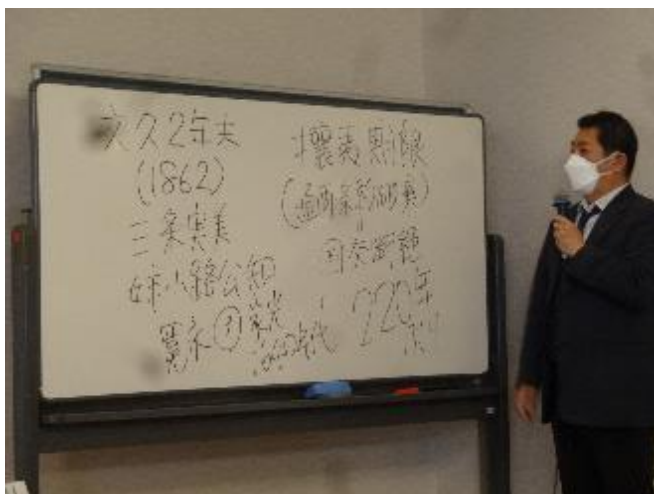
<振り返りと講義の内容>

- ・文久2年(1862)松平容保、京都守護職として黒谷金戒光明寺に宿陣。
- ・文久3年(1863)2月、清河八郎、将軍家茂上洛の警護のため浪士組結成(後に新選組)。
- ・文久3年(1863)3月、攘夷戦略奏上のため将軍家茂上洛(将軍上洛は家光以来220年ぶり)
攘夷の意味は、外国を打ち払うことではなく、通商条約の破棄であることに注意。
- ・文久3年(1863)3月、天皇の攘夷祈願のための加茂行幸に将軍家茂が同行。
(天皇に対する将軍家茂の位置づけが明確になる)
- ・文久3年(1863)4月、将軍家茂が攘夷期限を5月10日と奏上。
- ・文久3年(1863)5月10日、下関でアメリカ商船を砲撃。
この行為に対し、幕府は怒るが、攘夷を主張する朝廷は賞賛。ますます混乱する。
- ・文久3年(1863)7月、生麦事件の報復として、薩英戦争勃発。
この戦争を機に、薩摩も英国も、お互いをもっと知りたいとの機運が生まれる。

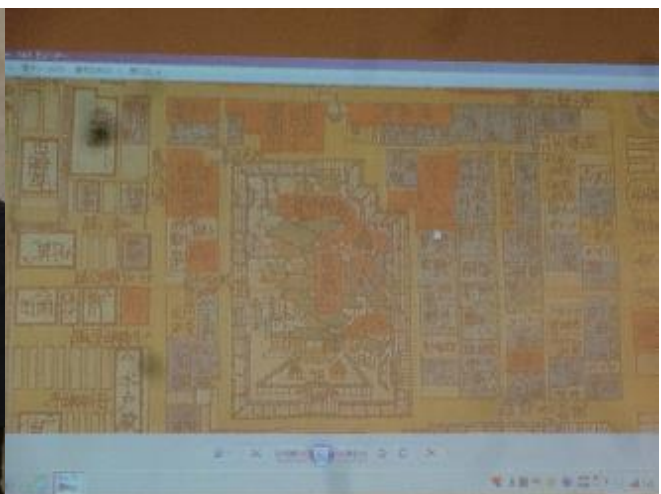
第7回講義は、第5回の積み残しの講義で時間いっぱいとなった。幕末は忙しい…

<中村先生からの情報、アドバイス>

- ・歴史について振り返る時は、「もしも」について考えてみたい。
もしも、将軍家茂が上洛途中の近江大津で春嶽の勤めに応じ、将軍を辞職していたら…
もしも、将軍家茂と和宮の間に男子が生まれていたら…など
今の日本は大きく変わっていたはず。



文久2年末、朝廷より幕府に対し、攘夷期限の報告を要請。



幕末の禁裏(京都御所)の絵地図